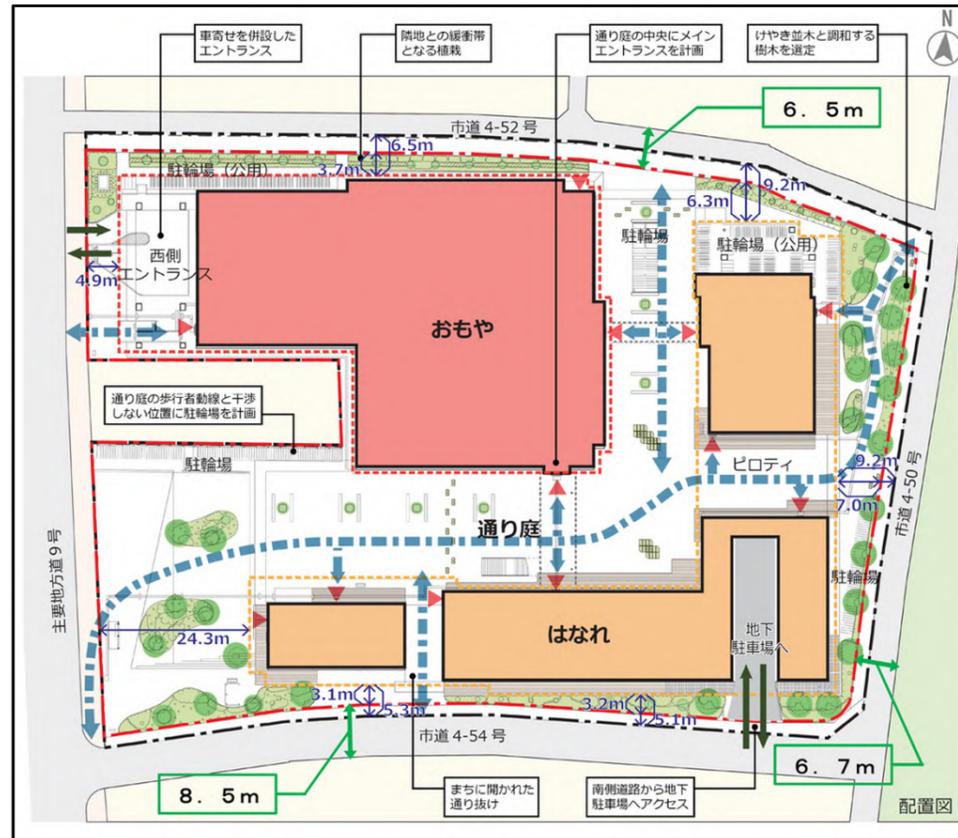


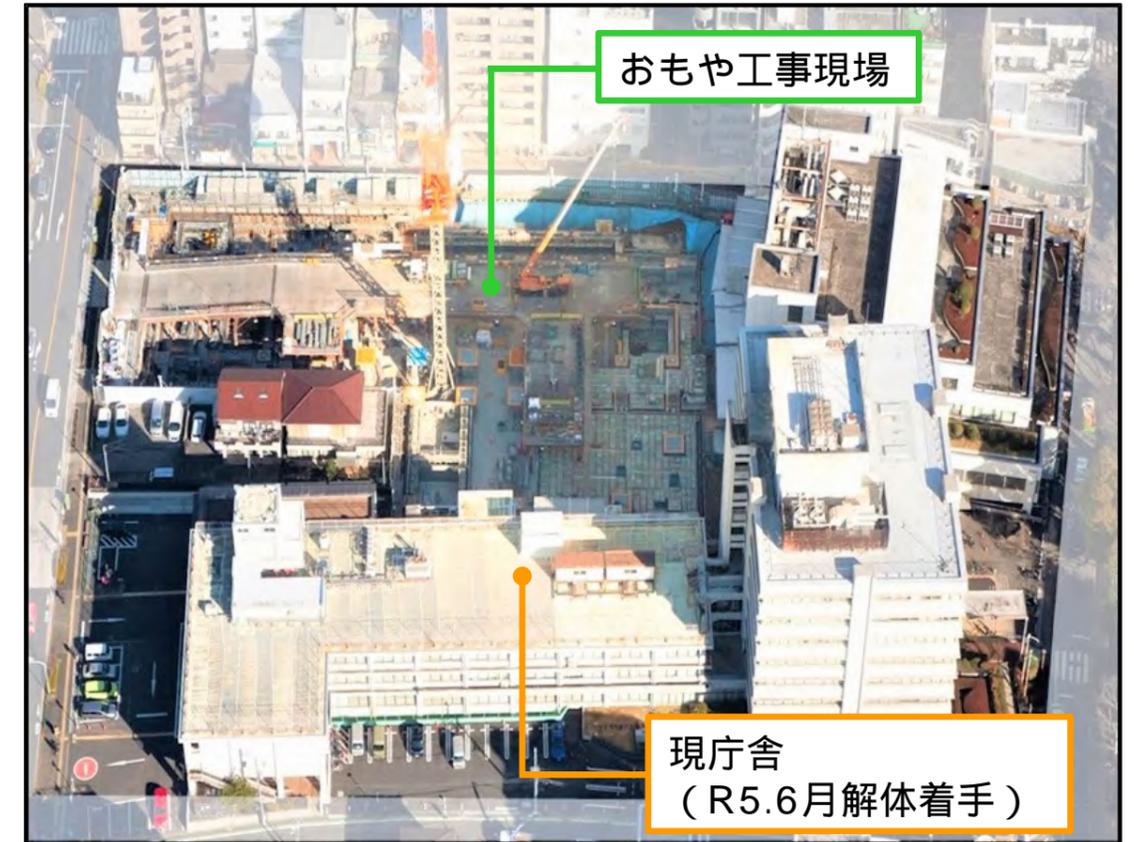
【建物概要】

敷地面積	11,064.85㎡
用途	事務所、図書館、店舗、駐車場
構造	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造(免震構造)
階数	地上6階 地下1階
最高高さ	30.14m
延べ面積	32,362.67㎡
建築面積	6,349.29㎡

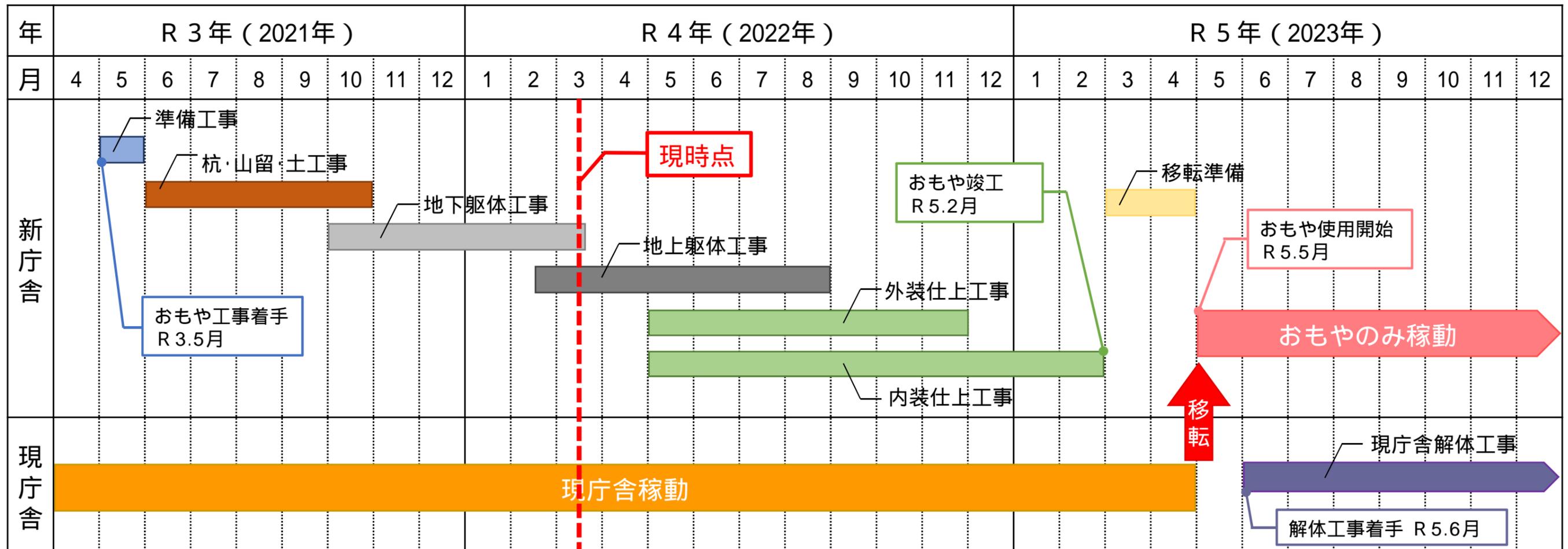
【配置計画】



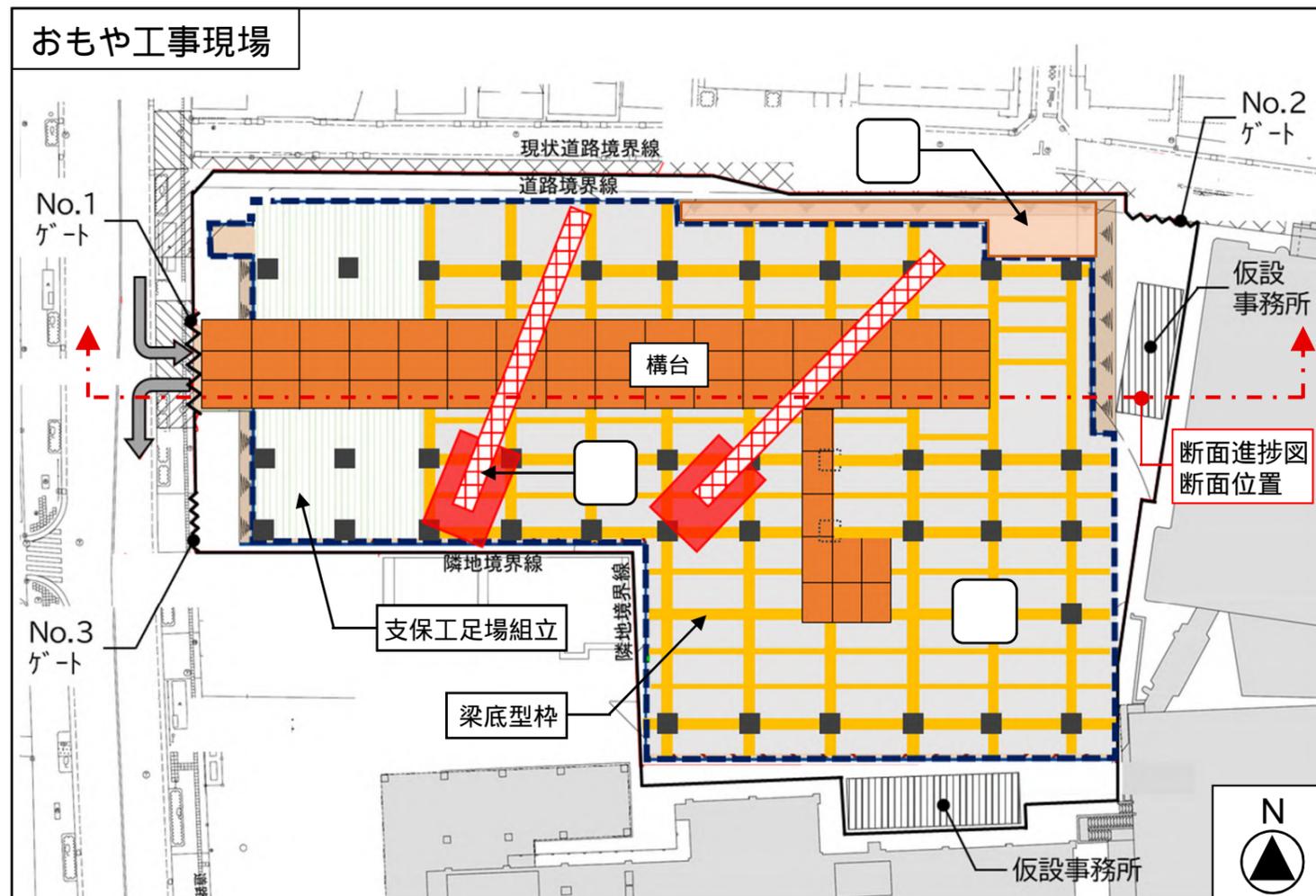
【航空写真 (R4.2月18日時点)】



【工程表】



【平面進捗図】

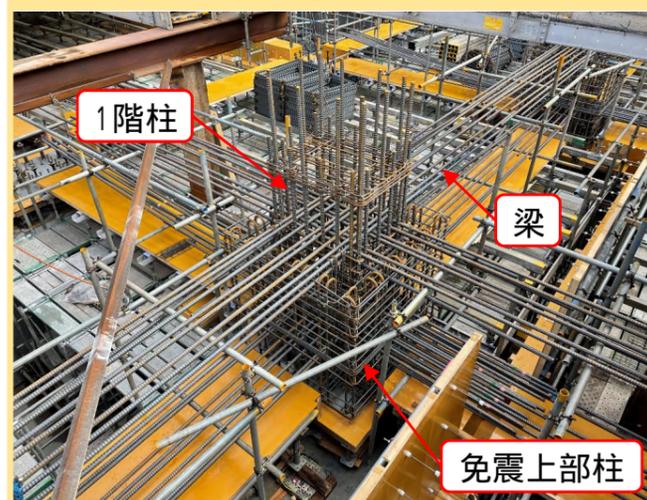


埋め戻し工事



- ・「油圧ショベル」を用いて、地下1階の擁壁外周部の埋め戻し作業を行っています。
- ・埋め戻しの高さ30cm毎に、作業員が「転圧機」を用いて、地盤を締め固めていきます。転圧機は、上下に跳ねるように動くことで地面に圧力をかける仕組みとなっています。

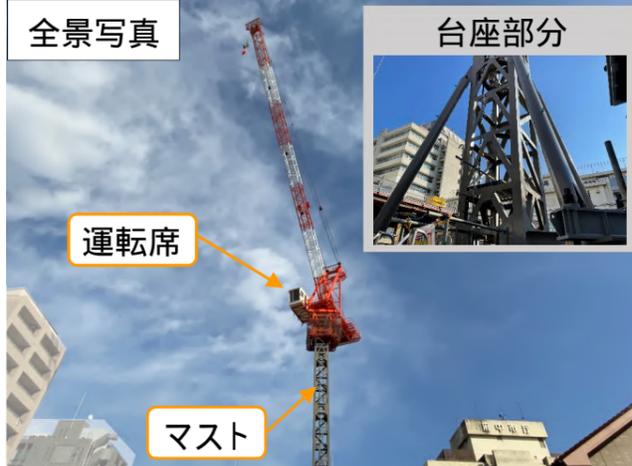
【1階】躯体工事



- ・地上1階部分の躯体工事として、「免震上部柱」、「1階柱」、「梁」の配筋作業を進めています。
- ・「梁」に使用する鉄筋は、1本あたり長さ約5m、重さ30kg以上あります。そのため、作業員は、3~4人がかりで1本ずつ力を合わせて鉄筋を組み立てています。

タワークレーン組立工事

全景写真



台座部分

運転席内

モニター



- ・マストクライミングと呼ばれる方法で組み立てました。建物の躯体に台座部分を固定し、様々なパーツを合わせてクレーン本体を組み立てた後、クレーンが、自ら「マスト(支柱)」を上部に継ぎ足して、所定の高さまで上がります。

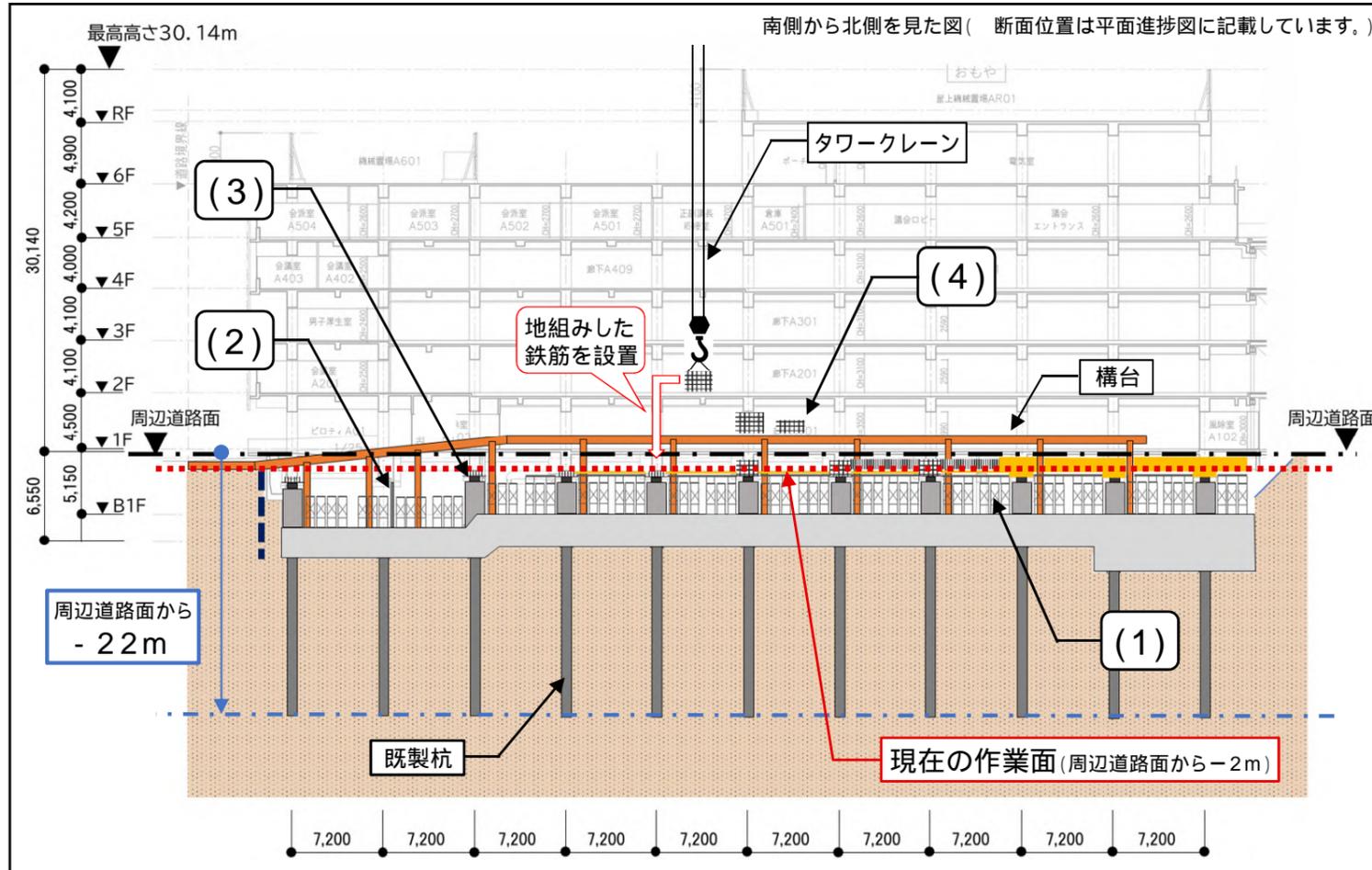
- ・タワークレーンの運転席は、地上から約30m上空にあります。オペレーターは、前面と足元にある大きな窓や「モニター」の映像を確認しながら、地上にいる作業員と無線機で連絡して、資材の揚重作業を行っています。

車両の紹介：ローダークレーン車

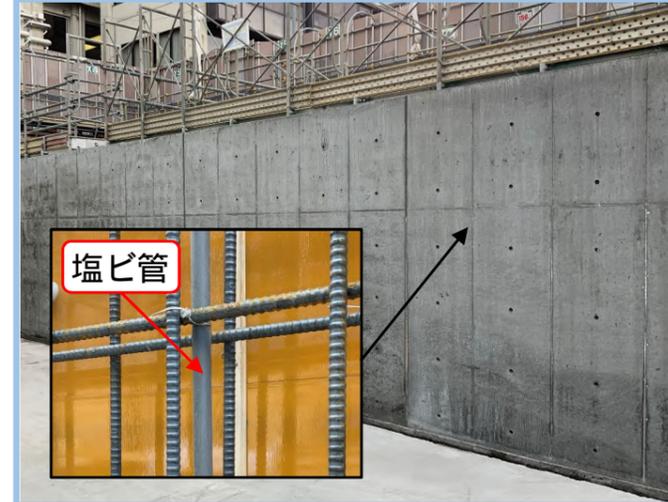


- ・「ローダークレーン車」は現場で発生したスクラップ(金属製の廃棄物)を回収する際に使用します。
- ・「グラップル」と呼ばれる部分は、UFOキャッチャーのように細かい鉄筋材などを器用に掴み、荷台へと積み込んでいきます。

【断面進捗図】



(2) 【地下1階壁】誘発目地



- ・コンクリートは、乾燥収縮によりひび割れが発生する材料です。そのため、壁に「誘発目地」を3m以内の間隔で設けて、その位置にひび割れが発生するようにしています。
- ・コンクリートの打設前に、壁の型枠内に塩ビ管を設置し、ひび割れを誘発しています。

(3) 免震装置設置工事



- ・地下1階の柱の上部に「免震装置」を設置しています。免震装置には、免震ゴム、滑り支承、オイルダンパーの3種類があります。
- ・写真の「滑り支承」は、地震時に上部のプレート部分が水平方向に滑ることで、地震時の揺れのエネルギーを逃がす役割を果たします。

(1) 支保工足場組立工事

足場上の様子



支保工足場

- ・上階の躯体工事を進めるにあたり、階高があるため、「支保工足場」といわれる仮設の足場を組み立てます。1階部分の配筋、コンクリートの荷重を受けるため、堅固に組み立てていて、最も強度がある部分では約2t(カバ1頭)の荷重にも耐えられます。

足場内の様子



- ・支保工足場の内部は、上部からの荷重を支えるために無数の鉄パイプが組み立てられています。そのため、昼間でも作業に十分な光が届かないため、照明設備を設置しています。

(4) 【免震上部柱】地組み



免震上部柱

- ・免震装置の上部に設ける柱の鉄筋組立作業を行っています。作業を効率化させるために、「地組み」という方法を行っています。「地組み」とは、前もって鉄筋を地上(構台上)で組み立て、組み立てられた鉄筋をクレーンにて所定の位置に設置する方法です。